

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

サッポロホールディングス株式会社（証券コード：2501）

【据置】

長期発行体格付	A -
格付の見通し	安定的
債券格付	A -
国内C P 格付	J - 1

格付事由

- サッポログループの持株会社。国内酒類のほか、国際、食品・飲料、外食、不動産など幅広い事業を手掛ける。ビール類は国内大手の一角を占め、ロングセラーブランドの「黒ラベル」や「エビス」を主力とする。不動産は恵比寿ガーデンプレイスをはじめ都心を中心に優良な賃貸物件を所有しており、16年9月には銀座5丁目再開発計画の「GINZA PLACE」が開業した。また、主力事業以外では近年、内外のM&Aなども通じ、事業基盤の強化を進めている。持株会社のガバナンス状況などからグループの一体性は強く、格付にはグループ全体の信用力を反映させている。
- 国内酒類市場は縮小傾向が続き、競争は厳しさを増している。ただ、ビール類の当社シェアは一定の水準が維持されており、業界内でのプレゼンスに特段の変化はない。また、不動産は収益力が底上げされてきている。不採算のベトナムビール事業の根入れなど課題もあるが、主力事業以外の収益寄与も着実に高まってきており、全体として事業戦略が収益面のプラス効果として表れてきている。財務構成も改善が進んできており、当面、その方向性を維持できよう。以上を踏まえ格付を据え置き、見通しを安定的とした。
- 16/12期は7期連続増収、営業利益は前期比約4割増の200億円前後の水準となり、3期ぶりの増益となったもよう。収益が押し上げられた要因は、国内酒類におけるビールや輸入ワインなどの販売好調、不動産の主要物件で高水準の入居率が維持されたことなどだとみられる。17/12期は「GINZA PLACE」が通年で寄与することなどが増益要因になると考えられる。継続的なコスト削減や収益源の分散効果などを背景に、当面、業績は堅調に推移するとJCRでは想定している。ベトナム事業の採算改善や、研究開発力の強化で商品力を一層強化していけるかなどに注目していく。
- 有利子負債は12/12期末を直近のピークとして、以後は緩やかながら削減が進展。DER（金融債務/自己資本）は12/12期末の2.0倍に対し、16/12期第3四半期末では1.5倍に低下している。新中期経営計画（17年～20年）では、「食」分野の拡大加速やグローバル展開の推進に向けた成長投資を実施しつつ、引き続き、有利子負債の削減を進めていく計画。投資原資の確保に向け既存事業のキャッシュ創出力向上を図るとともに、不動産は資産の見直しなどにより所要資金を確保していく方針となっている。

（担当） 清岡 由典・藤田 剛志

格付対象

発行体：サッポロホールディングス株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第26回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2012年3月2日	2017年3月2日	0.64%	A-
第27回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2013年3月14日	2018年3月14日	0.39%	A-
第28回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2013年12月5日	2020年12月4日	0.614%	A-

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第 29 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100 億円	2014 年 9 月 12 日	2019 年 9 月 12 日	0.308%	A-
第 30 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100 億円	2015 年 9 月 10 日	2020 年 9 月 10 日	0.331%	A-
第 31 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100 億円	2016 年 3 月 22 日	2021 年 3 月 22 日	0.250%	A-

対象	発行限度額	格付
コマーシャルペーパー	500 億円	J-1

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2017 年 1 月 25 日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：島田 卓郎
主任格付アナリスト：涛岡 由典
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014 年 1 月 6 日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014 年 11 月 7 日）、「食品」（2011 年 7 月 13 日）、「持株会社の格付方法」（2015 年 1 月 26 日）、「国内事業法人・純粋持株会社に対する格付けの視点」（2003 年 7 月 1 日）として掲載している。
- 格付関係者：
（発行体・債務者等） サッポロホールディングス株式会社
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置：なし

留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であることを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であることを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a) 項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ（<http://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル